

村史こぼれ話 17

新潟明訓高校の学校林

弥彦の城山森林公園は史跡や遊歩道が整備されており、弥彦山とともに、新潟県・森林浴の森100選に選ばれている景勝地となっています。

ここに弥彦の丘美術館があることはよく知られていますが、美術館入り口のすぐ左上方に「新潟明訓高等学校学校林」という白い標柱が立っています。弥彦と新潟明訓高校はどんな関わりがあるのでしょうか。

商工会館脇に「明訓校之址」という大きな石碑があります。ここは明治15年から29年まで、明訓校があったところです。同校は明治15年(1882)に大橋一蔵校長のもと私立学校として開校しました。明治18年には県下初の独立した県立中学となったものの、県財政の窮迫等の影響で県立が廃され、再び私立学校となりました。その後、しだいに生徒数が減少して廃校となってしまいました。旧弥彦小学校の校舎の一部に明訓校の校舎が残っていたことを記憶されている方もおいでになるでしょう。弥彦明訓校の精神と名跡は昭和17年(1942)、新潟の明訓中学校に受け継がれ、新潟明訓高等学校として発展しています。



前新潟明訓高校教頭の小杉正男氏から次の文を寄稿いただきました。

昭和26年(1951)9月、第2次世界大戦終結のための講和条約が締結された。これを記念し、また世界平和を祈念して翌昭和27年4月に彌彦神社と学校法人新潟明訓高等学校との間で学校林設定契約が結ばれた。対象となった所在地は彌彦神社所有の弥彦村大字弥彦荒城にある約21反の山林(弥彦総合文化会館に隣接する山林)である。この山林に新潟明訓高校全校生徒が同年(1952)5月7日に動員されアカマツ約9000本を植樹した。植樹したアカマツは神社・学校協力して育成・保護し、50年後昭和77年(2002=平成14年)4月に伐採し、その収益を彌彦神社4割、新潟明訓高校6割の比率で分収するという契約内容になっている。

平成14年の契約期間を経過した現在、彌彦神社—新潟明訓高校—弥彦村の深い関係を基調として、さらに学校記念林への移行を検討する方向となっている。